

復興の歩み（10年の節目）

忘れない、あの日

2015年9月10日に関東・東北豪雨で鬼怒川の堤防が決壊、市域の約3分の1にあたる40km²が浸水し、鬼怒川東地区では、多くの家屋が浸水などの被害を受け、人的被害も発生した大災害に見舞われました。

大勢の市民が避難生活を強いられるなか、国や全国

の自治体・自衛隊員・各県からの消防・全国からのボランティアから物心両面の支援をいただきました。支援の力が、現在までの地域の再生と発展に大きな役割を果たしています。



↑ 浸水時の市役所本庁舎



↑ 現在の市役所本庁舎

あの日からいまへ

本市は「常総市復興計画」を策定し、被災者の生活再建と災害に強いまちづくりを目指し、復興の体制を整えてきました。

関東・東北豪雨で大きな被害を受けた鬼怒川堤防では、水害対策の強靱化や地域活性化を目指し、堤防の強化とともに「鬼怒川サイクリングロード」が整備されました。復興象徴の一つであり、地域資源のネットワーク化に大きな役割を果たしています。



↑ 決壊後に復旧し、新たに整備された三坂町堤防（2016年）

9月10日は「常総市防災の日」です

本市では、市議会からの提案を受け、2015年9月関東・東北豪雨の経験及び教訓を風化することなく、後世の市民に継承するため、「常総市防災の日」を定める条例を制定し、2016年8月9日に施行しました。

この条例は、災害に対する市民の防災意識の向上を図るとともに、災害に対する備えの充実と強化を図ることを目的としています。

常総市の中心を南北に流れる鬼怒川堤防にあるサイクリングロードは、水海道と石下を繋いでおり、サイクリングでの市内移動が容易になりました。

さらなる防災先進都市へ



「災害に強い常総市」を目指し

本市では、関東・東北豪雨から学んだ教訓を活かし、水害や地震などの災害から市民が安心安全に暮らせるよう様々な取り組みを展開し、災害に強いまちづくりを推進しています。水害時に円滑に行動ができるよう、避難行動をあらかじめ時系列で整理しておくマイ・タイムラインの普及啓発をはじめ、災害時に地域の防災力向上を図る自主防災組織の設立支援なども行っています。



マイ・タイムライン作成支援

教訓を次の世代へ

水害から学んだ様々な教訓を風化させないよう、子どもたちに向けて、早い段階から防災に対する意識を高め、自然災害から自らの安全を守る力を育んでもらうため、防災教育として防災学習や防災スポーツなど

をおこなっています。

また「楽しみながら防災に備える」をテーマに、防災教育とアウトドアを融合させた「防災キャンプ」など新しいかたちでの防災教育にも取り組んでいます。



防災キャンプ

